

# 大空に翔る

平成10年3月発行

No.14

発行

(財)山形県体育協会

山形県スポーツ少年団

山形市緑町1-9-30

☎(023)625-5750

印刷 株式会社大風印刷



'97東京国際女子マラソンで優勝した伊藤真貴子選手  
(舟形町、長沢スポーツ少年団出身)



冬季オリンピック長野大会バイアスロン競技で6位入賞した  
高橋涼子選手(真室川町、真室川スキースポーツ少年団出身)



山形市、西小けやき野球スポーツ少年団



寒河江市、三泉剣道スポーツ少年団

切にお願い申し上げます。  
間もなく迎える新世紀は、学校も週休二日となり、地域活動としてのスポーツ少年団はますます重要な意義あるものとなってまいりました。人づくり、地域づくりの柱となる活動に、自信と誇りを持ち「二十一世紀の主役達」を育てようではありませんか。  
広報誌「大空に翔る」をお届けいたしますが、特集記事として、「いま、なぜスポーツ少年団なのか」を寄稿していただきました。スポーツ少年団活動の基本理念でありますので、日頃の指導に資していただければ幸いです。



本部長  
原田 薫

ごあいさつ

永年の間、山形県スポーツ少年団本部長として、私共をご指導下さいました永田亀昭氏が、この度、退任されました。ご尽力をいただきました数々の業績に対し、心からの敬意を表し、厚くお礼を申し上げます。  
子供達への愛情以外、なにもものもない私がその後を引き継ぐ事になりました。精一杯頑張りますので、みなさまの御指導、ご協力を切にお願い申し上げます。



山形県スポーツ少年団  
副本部長 安部 新一

**(1) 備わっている生きる心と力**

以前、NHKのテレビで人間の受精から出産までのメカニズムのシミュレーションが放映されたことがありました。今まで私たちが想像もできなかった神秘の営みが映像で見ることができたのです。日本の総人口にも匹敵する一億二千万から四千万もの精子が、たった一個の卵子に向かって卵管を溯って突進するさまは、まさにサイバルな競り合いであり、このような熾烈な競り合いを制して生まれた個体は何で脆弱なことがありますでしょうか。人間社会の様々な条件の中で生き抜くための逞しい営みが、既にこのときから始まっているのです。

**(2) つくられる資質と能力**

元来、人間の資質と能力は、先天的なものよりもむしろ後天的な環境による影響が大きいといわれています。なぜなら、それは胎児の四カ月の時期までに形成される一四〇億の脳

細胞の「からみあい」の密度によって決まると言われているからなのです。つまり、形成されたばかりの脳細胞はばらばらな状態から、視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚の五感を通じて外界の物事を認識し、様々な試行錯誤を繰り返して一個の細胞から約五〇本の樹状突起を出して互いに絡み合い、神経回路網が形成されると言われています。その回路網の配線は脳細胞の組織が若いほど形成されやすく、私たちはこの大脳に張り巡らされた神経回路網を使って物事を考えたり、行動を起こしていることとなります。従って、緻密な回路を持つ人は、より多くの複雑な問題の判断や行動に対応できますが、粗雑な回路しか持たない人は容易にそれらに対応することができません。

**(3) 心のネットワークをつくる**

人間の頭脳の中で最も人間らしい知・情・意の心に基づいた営みをする大脳皮質の構築は三歳頃までに一応の準備が終わり、七歳頃になると新皮質としての機能が備わって十五〜十六歳でほぼその発

達が発達することが生理学的に明らかになっています。

人間の身体は、およそ五〇兆の細胞からなっており、絶えず新陳代謝が行われていますが、一度形成された脳細胞は、その後壊れることはあっても再生されることはありません。しかもその数は、人種・性別・年齢に関わりなく、これほど平等なものはありません。それなのに物心ついたころから大人になるまでの間に大きな違いができてくるのはなぜか。それは、とりもなおさず神経回路網の密度の差によるものと思わざるをえません。

**(4) 運動のネットワークをつくる**

一方、体育・スポーツにおいてもこの回路網の形成が如何が大きく関わっています。一般に運動神経といわれているものは、乳幼児期の身体の動きから始まって少年期の運動体験が回路網の形成に大きく関わっているといわれています。しかもこの大切な時期を逃せば後で取り返すことは容易ではありません。従ってこの少年期には走る・跳ぶ・投げる・滑る・回る・泳ぐ・転がる等の基礎的な動作や巧緻性、独創性を育む動作など、あらゆる動作に対応できる「動きづくり」に重点をおいて様々な場

特集

いま、なぜ

スポーツ

を想定した体験をさせることが何よりも大切であります。また事故や危険を予見し回避する能力を育むのもこの時期であり、この時期がまさにスポーツ少年団の対象年齢に当たります。それだけに、この少年たちを取り巻く指導者や育成母集団など関係者は、学校教育との密接な連携を図りながら、共通の理解にたつて指導することが大切であります。

(5) スポーツ少年団のめざすもの

近年、生活様式の変化や食生活の改善等により、少年たちの体格は年々向上してきましたが、体力及び運動能力が必ずしもそれに伴って向上していない状況にあります。ファミコンやゲーム機器などの普及が少年たちを野外から屋内に引き込み、その結果、運動量の低下を招いています。

日本スポーツ少年団は、スポーツを通して体をつくり、心を育む人間形成の場として発足し、現在、ジュニアからシニアまで一貫した指導体制のとれる青少年の育成団体としてはわが国最大規模のスポーツ団体となりました。スポーツ少年団は、「主役はいつも子どもたち」をモットーに次のことを重点において指導しています。

① スポーツの好きな少年の育成をめざす

スポーツをやってよかつたという充足感、続けよとするモチベーションが持てる活動内容の開発と展開を図るとともに、スポーツから遠ざかっている子どもにもその喜びを与えていく。

② 基本的な生活習慣の確立をめざす

異年齢の規律ある集団生活の中で個々の生活習慣を見つめ直し、社会的に容認できるものに感謝する心、思いやりのある奉仕の心を育む。

③ 全ての団員に隔てなくスポーツを体験させる

過度の優越感や劣等感を与えないように活動プログラムを展開し、ドローアップやバーンアウトの少年をつなぐなど、個々に意欲と希望をもたせる配慮を、

④ 基礎的な動作と基本的な動きづくりをめざす

この時期にあらゆるスポーツに対応できるように、走る、跳ぶ、投げる、泳ぐ、滑る、回る、転がる等の基礎的な動作を取り入れた基本的な動きづくりを。

⑤ 安全な自己管理能力の育成をめざす

活動を通して自らオーミングアップやクレンジング等の意味と重要性を体得し、事故や危険を予見し回避する能力を養う。

⑥ 自主性や創造性を高める育成をめざす

自ら考え、自ら判断し、自ら積極的に行動する少年の育成をめざす。過度の指示や不必要な欲求の充足は、自主性や創造性の芽を摘むことになる。

⑦ 国際性豊かな少年の育成をめざす

日韓同時交流の成果を生かして自国の文化を理解し、他国の文化を尊重する。幅広い国際交流の場で活躍できる少年を育成する。

(6) スポーツ少年団育成の展望

野生の植物は、劣悪で厳しい環境の中でも自ら水分や養分を求めて土中深く根を張り、或いは岩の亀裂やコンクリートの僅かな隙間に根をおろすなど、逞しく生き延びる努力をしています。少年団の育成は、まさにこの野生の植物の生き様におきかえることができると思います。現実の社会には越えなければならぬ様々な山や谷があります。活動を通して勝つことの意味や負けることの意味をよく理解させ、耐える心や感謝する心、思いやりの心を育むこと。このことが少年たちをより大きく逞しく成長させることとなります。そして、少年たちの発育発達段階の全体像を見据えた将来にわたる育成の計画を立て、目先の結果だけを求めず究極の目的に向かって大輪の花を「いつ」「どこ」

で咲かせるのか。その時期についてお互いの立場と役割を認識して研修を重ね、つねに共通の理解にたつて事に当たることが大切であります。やがて、少年たちが社会に出て、荒波に揉まれながらも逞しく生きる姿を見るとき、育成に携わった関係者として望外の喜びに浸ることができるとは思いませんか。



# 友◆交◆好◆流◆

今年もいろいろな交流がありました。みなさんも積極的に参加しましょうね。

## 日独同時交流受入

西村山支部一市四町  
七月二十五日、三十一日

### ダンケシエーン、ミヒヤエル

寒河江市 遠藤 恭子

「ドイツの人が、ホームステイするよ。」と主人から話があったのは、いつの事だったでしょうか。主人も以前ドイツに行った時に、ホームステイをしてお世話になっていました。我が家に外国の人をホームステイさせるなんて、まるで他人事のように考えていた私には夢のような話でした。言葉、食事、生活習慣のまるで違うドイツの人を、いったいどのようにして受け入れたらよいのか、正直言って困ってしまいました。

しかし、我家にやってきた「ミヒヤエル」は、笑顔のすてきな、すばらしい人でした。あんなに心配していたいろんな事が、嘘のように吹き飛んでしまいました。食事は、日本食をはじめ、ほとんどと言つていいほど、おいしいと食べてくれました。言葉も、主人を介して、身ぶり手ぶりでなんとか通じ

ました。最初緊張していた、じいちゃんやばあちゃん、そして三人の子供達も、次第に彼に親しみを感ずるようになっていきました。ちょうど子供達は、学校が夏休み中で、毎日彼と一緒に過ごせた事は、何ものにもかえがたい思い出となり、ひいては、「ドイツと日本」という、小学校六年の長女の自由研究のテーマにもつながりました。

一週間という短い時間ではありましたが、同じ屋根の下に、共に眠り、共に食事をして、同じ時間を過ごすという事は、こんなにも人と人とを近づけるという事を、改めて知らされたと思います。もうすぐホームステイも終わりという頃に



は、彼がもう、家族の一員のようなそんな気さえしました。

ホームステイ最後の日、彼が我が家を去る時には、寂しさのようなものを隠す事ができませんでした。彼は、思い出だけでなく、いろんな事を私達に残していつてくれました。たくさんさんの写真を見ながら、今、そんな事を思っています。本当に楽しい一週間でした。我家では、今でも、「ダンケ」、「ピツテ」といったドイツ語が、時々会話の中にとび出してきます。

## 日独同時交流派遣

### ライフスタイル二〇〇〇 ―若者のライフスタイル

寒河江市 宇野 健志

まず日本の部活や伝統的なスポーツのスタイルを見てもらい、それに対してドイツの側から二〇〇一年までに今現在悪いと思つて



## 全国スポーツ少年大会

川西町 佐竹美麻子

この大会に参加して、私はたくさんものを得たと思います。多くは語れないけれど、いろんな人のいろんな優しさが見えてとてもうれしかったです。班員の人、部員が一緒の人、リーダーの方々、指導者の方々に出会えて、本当に良かったと思うし、同時に学んだこともたくさんありました。別れる

のか、或いは今ドイツではやりつつあるビーチフラッグやダンスなど、とり入れられるのか？などの質問を受けました。

自分ではあたりまえのようにやっていた部活でしたが、何も知らない人達から見るとそのような見方もあるのだと、改めて考えさせられました。

今回のテーマでは、お互いのスポーツに対する、考え方、やり方、また若者の生活について考える事ができたので、今後に生かしていきたいらと思えました。

## 平成九年度 日独スポーツ少年団 同時交流派遣者

七月二十、八月十二日 ドイツ  
指導者 井上 道雄(長井市)  
団員 宇野 健志(寒河江市)  
村田麻里子(鶴岡市)  
四釜 忠明(長井市)

のはすごく悲しいけど、この経験は、一生大事にしていかなければならないものだと感じました。

最後に、リーダーの方々、指導者の方々、すばらしい五日間を本当にありがとうございました。

今回の全国スポーツ少年大会に参加して学んだことは、集団生活の中でのできまりの大切さ、友達の大切さを学びました。私が東北ブロックススポーツ少年大会に参加した時にできた友達との再会、新しくできた友達との出会いなどとてもHappyなことが続いてうれしかったです。プログラムでは、何と言つても最後にやったファイヤーチームがとても印象に残っています。私は、今回の全国スポーツ少年大会に参加して良かったです。



今年は交流の成果がより深まった

県スポーツ少年大会  
金峰少年自然の家(鶴岡市)



☆平成十年度は山形市少年自然の家(山形市)にて(八月六、八日)開催されます。

ジュニアリーダースクール  
神室少年自然の家(真室川町)



☆平成十年度は朝日少年自然の家(大町)にて(八月十七、十九日)開催されます。

地域交流促進事業

山辺町スポーツ少年団  
事務局 渡辺 宏



中山町と山辺町のスポーツ少年

団の親子並びに指導者が一堂に会し、より多くの仲間と様々なゲームを通し交流を図るとともに、親と子、指導者と団員との和を広げる事を目的に、山形県スポーツ少年団地域交流促進事業として、「親子スポーツの集い」を山辺町で開催いたしました。

開催当日の一月二十五日は、久しぶりの快晴となり、前日まで降り続いた雪は八〇センチ程積もり、会場となった山辺町多目的グラウンドは雪を使ったゲームをするのには最高の条件となりました。そのような中、色とりどりのスキーウェアを着た少年団員や父母約二五〇名が新雪のグラウンドに集合しました。最初に行われた開始式では、山辺町教育次長と山辺町スポーツ少年団本部

長との挨拶の後、審判長より各競技の内容説明が行われ、さつそく一番目の競技の準備にとりかかりました。一番目の競技の雪積み競争は各少年団対抗のチーム戦で、与えられたバケツ二個を利用して制限時間内にどれだけ高く雪を積み上げられるかを競いました。せつかく積んだ雪が途中で崩れてしまったチームもあり、親子協力して崩れないように頭を使いながら積み上げ、優勝したチームは三メートルも積み上げました。その後、八〇センチの風船をチームで協力して上げ続ける風船上げ競争、全員が一斉に参加して行う〇×ウルトラクイズ、全員を二チームに分け、ボール一〇個を一斉に使って行う雪上サッカーと行われ、雪の中を元気に飛び跳ねる姿が印象的でした。

今回行ったこの事業で、親と子として指導者が自分の少年団を離れ、日頃の活動とは違ういろんな人との交流が図られたのではないかと思っています。この事業を通して得た経験を今後の山辺町スポーツ少年団本部の活動にも活かしていきたいと思



美しい山嵐、みどりの山々から吹く爽やかな風の中、スポーツによる青少年健全育成事業に取り組んでいる平田町スポーツ少年団では、現在三つの団、五種目(団員二八九名、指導者三三名)が活動しています。

主な年間活動としては、各単位団活動のほか、種目ごとの交流大会、そして毎年一月に行われる町スポーツ少年団交流会があげられます。交流会の内容は、団体協スポーツテストを行いその結果については、各団に帰ってからの指導に役立てています。また、ユニホック等のレクリエーションスポーツで、普段はなかなか顔を合わせることのできない他団員との交流を深めています。

平田町の他、酒田市、八幡町、松山町、遊佐町の一市、四町では、酒田飽海スポーツ少年団大会を開催して

おり、酒田飽海地区の美しい自然を利用し、各市町が輪番で開催地を担当しています。平田町が当番町となった今年度で二十四回を数え、海洋センター艇庫でカヌーやヨット活動、森の家でのそば打ち等を通して交流が深められました。また、来年度二十五回大会は、酒田市が当番となり、飛鳥を会場にして行う予定です。

平田町スポーツ少年団の今後の課題として、指導者の確保増人、団員数の減少により早晚来るであろうと思われるスポーツ少年団町一本化への対応、そして母集団の育成等の充実とともに、地域社会におけるスポーツを推進する原動力となるような少年団づくりを目指して頑張りたいと思っています。



# 団員の夢



Y S C 水球少年団  
スポーツ少年団  
山形市  
菅原 社大

ぼくは、水球をはじめて、三年目になります。

水球をはじめた理由は、スイミングクラブで四種目を泳げるようになった時、コーチから、「水球コースに入らねが。」と言われたので、おもしろそうだと思います。

練習は、火、水、土、日の週四回です。泳ぎこみや、基本練習はつらい時もありますが、楽しくて最高です。べにばな国体で優勝したチームのメンバーの三人が仕事が終わってから指導に来てくれます。コーチ達は、とてもやさしくていいいに教えてくれます。足や手の使い方、ボールを持ってからの動き方、ディフェンスのかわし方、そしてディフェンスのし方、それをがんばってやったら、スタメンになることができ、その時は「むっしゅっしゅ。」というかんじ

でした。初めて全国大会に出たのは、平成八年夏、山形大会でした。

ぼくはベンチで応えんでしたが、念願の「一勝」ができたので、とてもうれしかったです。

チームメイトはいろいろな所から来るので、友達もふえました。これから春の全国大会の予選もある中で、みんなで力を合わせて全国大会へ行きたいと思います。そして、おとなになっても、ぼくは水球とかかわって行きたいと思います。



会 土 郷 三  
大 江 町 郷 地  
春 紀

ぼくは、一年生の時に、「剣道に入らねが。」とお父さんに言われて、入って

みました。入った時は、ごちなく「もうちよつとうでのばした方がいいな。」

と、注意されてばかりでした。でも、レクリエーションや、キャンプなど楽しいことがありました。



大石田キンダース  
野球スポーツ少年団  
大石田町  
大山 和紀

キンダースへ入ったこの四年間、今思えばあつというまのでき事だった。

最初は、特に野球に興味があるわけでもなくお兄ちゃんがやってるからただそれだけの事で入部した。入部した最初の一年間は、ものおぼえが悪くしよつちゆう先ばい方にしかられ、一時はやめようと思ったこともあった。

四年生になると代打でときどき試合に出るようになり、日に日に

一年生の十二月ごろに、ぼう具習をつけました。先ばいの人達と練習をすることになって、ぼくも「がんばってやるぞ」と思いました。先ばいの人達の打つ面はとても

いいでした。二年生のとき、初試合です。やっぱり強い人ばかりでした。まんぞくいかない結果で、「来年は優勝するぞ」と思いました。

冬は足が冷たいし、体も寒いので泣きたくなったりもしました。「これも優勝するためのだ」と思い、がんばってきました。そして、三年

野球が楽しくなっていた。

五年生になるとよく試合に出るようになり、後はいも二学年もできチーム全体の事を考えられるようになった。

そんなこんなで三年たちぼくも六年生になりキャプテンという大役をまかされた。いきこみはあつたもののあまり良い結果は残せなかった。

しかし野球からは、チームワークというとても大切なことを学べた。中学校にいても野球を続けていきたいと思えます。そしてまた野球から新しい事をまなびたいと思えます。

生の時に、低学年の部で優勝しました。

でももっと強い人はいると思います。高学年の部でも、優勝するぞと、さらに練習をがんばりました。五年の時は、三回戦くらいで負けてしまったけど、六年の時は苦戦しながらも三位でした。まあまあだっ

たかなと思えました。ぼくは、将来はマラソンの選手になりたいです。そしていつかはオリンピックに出たいです。剣道でつけた体力で、四十二・一九五キロメートルを走りぬきたいです。



日新バトミントン  
スポーツ少年団  
新庄市  
内田 万里子

私は、三年生からバドミントンを始めました。二歳年上のお姉ちゃんも三年生からバドミントンをやっていたので、試合があるといつも見に行っていました。それを見てみると私も強くなって試合に出てみたいと思うようになりました。

スポ少に入ったばかりのころは、五、六年生がとても強くて試合ではなかなか勝てませんでした。その時は、すこくやさしかったので、もっと練習して強くなつて優勝しようと思えました。

練習は週二回ですが、スポ少のみんなは、この日以外にも練習して強くなるうとがんばっています。もちろん私もみんなに負けな

いようがんばっています。私は今五年生ですが、この成果がはつきってきたのは、九月の県大会です。この大会は全国大会の予選にもなっていたので、ぜったい優勝しようと思つてがんばりました。その結果、優勝することができました。しかし、東北大会では、あと一

つ勝てば全国大会へ出られたのに負けてしまいました。

来年は必ず全国大会へ行つて、一回でもいいから勝つことが私の目標です。

試合もたくさんあつて、いろいろなところに行つたり、いろいろ



ホッケー部  
小松 川 小関 佳奈

私は、三年生の時からホッケースポ少に入り、四年目になります。三年生の時は、思うようにスティックを動かすことができず、いつも六年生のプレーを見て、「六年生みたいに上手になりたいなあ。」

と、思いながら週二回の練習をがんばってきました。

そして、三年生の時、初めての試合でゴールキーパーをしました。それから三年間このポジションでがんばってきました。

でも、今年からは、ディフェンスのポジションをまかされました。その時は、うれしい気持ちもありましたが、不安な気持ちもいっぱいでした。

新しいポジションでの初めての

な人と試合をします。それで今ではほかのスポ少の人とも友達になつて文通もしています。

六年生になつても目標に向かつてがんばって行きます。そして友達もたくさんつくつて、楽しい思い出にしたいと思っています。

試合は、県大会でした。この大会では、とても楽しくプレーすることができたし、優勝して全国大会への切符も手に入れることができました。

全国大会でも、自分もチームも納得のいく試合をすることができました。

私は、スポ少を通して大きな夢を持ちました。今年、地元の高校生が、ユースホッケーの日本代表に選ばれました。それをみて、

「私もこんな選手になりたいなあ。」

と、思いました。今は、この大きな夢がかなうように、今まで見てきた先輩のプレーや全国大会などで体験してきたことをいかしていきたいと思います。

これからのスポ少や中学校のクラブ活動では、様々な大会で得た感動やくやしさを大切にして、持ち前の「ガッツ」で、がんばっていきます。

新しいポジションでの初めての



卓球部  
飯豊町 遠藤 紗江

私は三年生から、白樺卓球スポ少に入り四年間がんばってきました。

五年生のころ、町の大会で初めて二位になったとき、他の人では感じる事のできない喜びを手に入れました。「この調子で今のスポ少をもっと強くしていきたい。」と胸に



北平 田  
スポーツ少年団  
平田町 渋谷 真奈美

私は、三年生の時に、バレーボールのスポ少に入り、まる四年ががんばってきました。スポ少に入ったばかりの時は、まだボールもさわつたことのない私に比べて、他の先輩達はすごい練習量でした。

その練習を見て、「私もこの人達みたいにするばらしいプレーがしたい。」という気持ちとともに、私の

初めての練習が始まりました。初めはサーブ、オーバーパス、レシーブの基本から始まり、四年生に

ケットをにぎって夜おそくまで練習していた時もあります。

そして、私が六年生になると、「キャプテン」という重い任務をあたえられました。「こんな私でリーダーが務まるのだろうか。」不安と期待で胸がいっぱいだった初めのころ、いままで先輩を見てきた私は、これから先輩に自分の姿を見せなくてはなりません。

夏休み、「置賜大会」では団体戦女子、みごと第二位を勝ちとることができ、いままではほど遠かった「県大会」にも出場することができた。

なつてからはポジションがバックライトのレギュラーになりました。バックライトというポジションはセッターにボールを返す役目です。五年生になると、トスをあげるそのセッターになりました。トスをあげる人は三人いるので、誰にあげるかは、声をかけ合つて、判断するようにしました。六年生になると、セッターもふくめて、レフトからアタックを打つ、アタックカーになりまし。おまけに、「主将」という大変な任務を背負い、チームのみんなをひっぱっていくことになりました。主将は、後輩のお手本になるようにがんばっていかなくてはなりません。いつも、

きました。これも、いままでの努力と仲間との協力があつたからだと思っています。

六年生になつて卓球を続けていて、もういやだと思ひ、くじけそうになつた事も何度かありました。やつてよかつた、そう思える事もありません。

この四年間、卓球を続けてきた人達といろんな経験をしてどんどん強くなれました。

私は本当によい体験をしたと思っています。

「主将たる！」と、いうこの一言で今までに主将になつた人の大変さもわかつてくるようになりまし。私が主将になつて初めての公式試合は十一月の五年生以下の新人戦大会でした。相手は同じ五年生以下でも主将は四年生でした。

私はその時、「四年生でもいろんな努力をしているんだなあ。」と、思いました。その大会は、今までの練習の成果がでたということで、一回戦は勝つことができました。六年生になつてからも、たくさん試合がありました。四年間の練習をむだにしないように、中学校に行つても、バレーボールを続けて

いきたいと思います。

# 団 紹 介

## 上山市 月岡ミニバスケットボール スポーツ少年団

団長 園部 公雄



私たち月岡ミニバスケットボールスポーツ少年団は「バスケットを楽しく」を合言葉に、週三回(木、土、日曜日)の各二時間ずつ三、六年生の男子四十人が練習に励んでいます。

今年度、創設から十一年目を迎え、創立以来の悲願であった県大会で初優勝し、全国大会出場を手にすることができました。子どもたちの目標と母集団の後押しが一つになった賜物だと思えます。

バスケットに限らず、スポ少の目的は勝つことではありませんが、やるからには子どもたちに勝たせてやりたいと願うのは当然のことであり、練習は練習のためにあるのではないはずで、練習の結果として、試合を通して勝つことの喜びと負けることの悔しさを体験し、自立する精神を養うことができるのもスポ少であると考えます。大切なことは、チーム全体としての目標を持ち、その目標達成のため

にチームが丸となってひたすら努力することであると考えています。目標はあくまで「おしつけ」であって、はならないのは当然であり、子ども自身が決めることです。私たち指導者は、子どもたちの目標達成に向かって手助けし、自らもバスケットを楽しみながら、ときには、苦しさや辛さがあっても励ましあい、協調性や仲間を大切にする気持ちを養ってもらえればと考えています。

そして何より大切なことは、子どもたち一人ひとりが「バスケットをやらされている」と思っているのではなく、自らの頭で考え、自らの可能性を自らの力で引き出すことが重要で、加えて私たち指導者としての目標は、バスケットボールの底辺を拡大し、中学に繋げるための基本を身につけさせるという使命があります。幸い月岡ミニバスケットボールスポーツ少年団からは、殆どの子どもたちが中学、高校とバスケットを続けてきています。このことから私たちの励みになり、そしていつかは、羽ばたいていった子供たちが指導者として帰って来てくれるものと確信しています。

これからも、目標に向かって皆でバスケットを楽しんでいきます。

## 大江町 大江レッドタイガース野球 スポーツ少年団

代表指導者 軽部 正之



大江野球スポーツ少年団は、町内の小学生を対象に、昭和五十八年に結成され、本年度十五周年を迎えました。現在団員は、町内五つの小学校から集まった三十名、指導者六名で練習に励んでいます。活動内容は、毎週土曜日、日曜日に練習しており、各種大会への参加(合宿、鏡開き、スキー教室、親子レクレーション、送る会、と野球だけにとらわれない幅広い活動を自指しています。スポ少での特に顕著な活躍は少ないものの、中学生以降も色々なスポーツに親しめる基礎体力づくりを主に、野球を通してスポーツの楽しさを体得することを主眼に活動しています。十五年ともなりますと、結成時の子供達も既に社会人となり、一人一人と指導者として関わりを持つてくれるようになりました。現在の団員たちも将来スポ少に、そして地域活動に関心をもち指導者として帰って来てくれることを期待しています。今後も、野球の技術の向上はもちろんのこと、スポ少時代のすばらしい思い出づくりが出来るように団員、指導者、母集団が一丸となって努力して行きたいと思っております。

## 村山市 戸沢サッカー スポーツ少年団

指導者 佐藤 直秀



戸沢サッカースポーツ少年団は、村山市立戸沢小学校の子供を対象としたサッカースポーツ少年団です。団員は三十名で、練習は週一回で日曜日、小学校

のグラウンドで、冬季間は体育館で活動しております。結成したのがJリーグのサッカーチームが盛んであった平成六年十月で、まだ四年目になったばかりです。

北村山地区を中心に大会、練習試合を行っており、勝負にこだわらずにサッカーを楽しく、のびのびとやってくれれば良いと考えておりま

## 真室川町 真室川柔道 スポーツ少年団

代表指導者 庄司 信一



真室川柔道スポーツ少年団は、地域の児童を対象に、昭和五十八年十月に結成され、約二十年間の活動を続けてきております。

昭和五十九年から、柔道スポ少を通し、中学校の柔道部に入部した生

す。練習時間は週一回、二時間と他のスポ少と比べて多くはなく、子供、父母、指導者にも無理がかからないようにしております。一泊の合宿、芋煮会等をお子と父母と一緒に楽しみ、また、グラウンドの雪消し作業等も行っている。

指導方針としては、子供のサッカーは遊びであり、それは楽しくなくてはならない。子供たちを上手、下手の区別をしないで一緒にプレーすることが非常に重要であり、チームワークを大切にしていきたい。子供たちにとって楽しいサッカーを父母、指導者が一緒になって作りあげていき、将来、中学校、高校と続けてもらいたいと思っております。

最近、小学校を卒業した団員が、楯岡の中学生と一緒にサッカーを続けており、指導者として帰ってくるのを楽しみにしております。

徒、父兄の要望、学校の理解を得て、その後は小中合同のスポーツ少年団活動を続けてまいりました。

柔道競技に関してその事例は県内二団体といったことから県の部活動研究モデル校として、認可を受け、中川重美指導者を派遣し、活動を続けていくところであり、毎週二回、三回の練習と夏休みに早朝トレーニング等を行い数々の成果を生んできました。

小学生の指導理念として人格完成に務めること。和を大切にすること。



と。礼を重んずること、を柔道訓として子供達にその内容の説明をしつかり教えてきました。練習もさることながらできるだけ指導者と団員の話し合いの場を持つようにしているため、団員達はとても仲が良いようです。

中学生の部訓は団結融和、質実剛健、品位尊重、好結果はすべてその三つの要素が必要不可欠だと思っています。相互の信頼関係を大切に

### 米沢市 米沢市東部サッカー スポーツ少年団

団長 加藤 雄 治



米沢市東部サッカースポーツ少年団は、米沢市立東部小学校を中心に、サッカー少年団が結成されてい

当少年団は、米沢市内に於いてマンス少年団と知られており、団員数は多い時で約百二十名、少ない時で約八十名。このため指導者も一四名で対応しております。指導者を一学年に二名配置し指導の負担を軽減しております。

又、団結成以来今年で、二年経過し卒団生から指導者が出てきており、今後出てきてくれることを期待しております。

し、とても仲の良い絶対にいじめなどがない活動に心血を注いでいます。地域と学校が一体となり、逆三角形となって家庭における親と子の論理についても良い喜豪ができればと考えております。

小学生児童の団員活動から、中学生、高校生、そして社会人として育ったかつての教え子達が帰って来てくれている充実した日々を過ごしております。

活動としては週一回(毎週日曜日)と少ないのですが、行事等を多様に催し楽しい団活動を目指しております。

行事としては、各種大会出場はもちろぬ福島市立余日小学校と春、秋年二回交流。埼玉県所沢市立荒幡小学校は年一回交互に交流を行っております。その他に元旦マラソン、夏休中の合宿、芋煮会、スキー教室等を行っております。

一方、卒団生の活動としては、平成十年の都道府県対抗女子駅伝選手に選ばれたり、米沢市中学校スキー大会で女性ジャンパーとして出場する等サッカー以外のスポーツで活躍しております。

最後になりますが、団活動は、「スポーツを通して仲間づくり」あらゆるスポーツに対応できる心身の鍛錬をモットーに後援会と共に適進しております。

（写真は荒幡小「ピガーズ」へ当団より贈呈した横断幕前での記念撮影）  
交流会にて

### 長井町 豊田サッカー スポーツ少年団

代表 佐藤 孝 博



豊田小学校の児童を対象に、昭和五六年四月に結成して十七年を迎えました。団員は二年から六年まで二十五名、夏場週三回、冬場週二回各二時間余りが練習時間です。

その内容は、少年期に大切なボールタッチを多く取り入れ、また、子供達の一番の楽しみであるゲームを中心に「楽しいサッカー」を合言葉に練習に励んでいます。最近、団員数の減少が悩みの種となっております。勝つことだけを目標に活動しているのではないのですが「勝つことの喜び」を味わう大切さを痛切に感じています。春と秋はほぼ毎週のように大会が続き、育成会の皆さんもテント設営、応援と大活躍です。試合の展開に一喜一憂しながら、我が子の頑張りを楽しんでいるよう

です。この他、年間五回の育成会主催事業を実施していただいております。団運営は年々充実したものとなっております。さて、今年は何と言っても日本のワールドカップ初出場。子供たちに大きな夢を与えてくれました。我が団にも日本代表、ワールドカップ出場の夢を抱いている子供もいるようです。これは、指導者の夢でもあります。これからも指導者としての研鑽を忘れる事なく、「大空を翔る子供達」の育成に携わって行きたいと思っております。

### 遊佐町 高瀬剣道 スポーツ少年団

指導者 菅原 幸 信



我が剣道スポーツは昭和二十八八年高瀬小学校の剣道部として発足しました。昭和四十年には三道会(現在の体育振興会)が結成され、全戸からの助成を得て武道の振興が

図られてきました。これに支えられて昭和四十二年には「高瀬剣道スポーツ少年団」とし

て正式に登録され以来三十年間各種大会で活躍してきました。当スポーツの年間行事としては、剣道部発足以来続いてきている一月の校内大会、七月の全日本少年武道練成大会、その他十回前後の各種大会出場があります。特に校内大会は寒稽古の意味も込められた真冬の大会ですが剣道部発足以来の大会で今年で四十三回目を数え歴史のあるものなのです。又東京の武道館での練成大会は出場後、デイズニールランド見学が恒例となっており、子供達の最大の楽しみでもあります。年間十回も大会参加をするという事で一年が非常に短く感じられるのも事実です。練習日は火、木、金の週三回です。



学習コーナー

地域に根ざした育成母集団活動

大山スポーツ少年団

大山スポーツ少年団

団長 高 櫻 正 富

一、概要

大山地区は、昭和三十八年九月に鶴岡市に合併したところで、人口は約八千人のまちです。伝統的

に商工業のまちとして発展し、酒造業がその産業の中心でありま

す。スポーツ活動に関しても伝統的に盛んなところであり、地区の体育協会に加盟している社会

人のスポーツクラブが十七クラブあります。

こうした中にあり、自分達がスポーツをするだけで

なく、次代を担う少年達の育成にも熱意を示し、昭和四十二年に大山サッカー

スポーツ少年団が結成されました。

その後、柔道、バドミントン、野球、剣道、ミニバス

ケットボール、バレーボール、空手が結成されて、現任

では、これらの七つの単位

団となっており、百七十七名の子とも達と四十八名の



換、各種行事の企画・立案を行っており、大山地区の子供たちの心身の健全育成の大きな力となり、スポーツ少年団活動の推進役となっております。

全体行事としては、

月山登山を行っており、父兄も一緒に参加し、体力の向上を図るだけでなく、親子、あるいはほかの

団との交流も深めております。また、七団

合同で体力テストを実施し、父兄の方々からもテストの判定員をお願いして協力してもらっています。

また、各単位団においてもそれぞれ父兄会という名称で母集団が組織されております。

この組織は、親を中心に結成され、同運営のために役割分担を指導者に協力するとともに、大会の輸送や親子行事に参加し、団活動の強力な推進役となっております。

バドミントン・バスケットボールなどによる試合を行ったり、親も一緒に積極的に体を動かして



子供たちの自主性を育て、サポートしていくための母集団づくりを目指そう!!

特に、サッカーにおいては、鶴岡市において例年二月に母親だけによるミニサッカー大会が行われるため、親も一緒に練習を行っています。

ほかの団でも親子でのスポーツ活動を行って親も積極的に体を動かしてあります。

地区全体の母集団と単位母集団の二つの母集団がうまく連携を取り合いながら運営されていることにより、大山地区のスポーツ少年団は活発に活動しております。

また、各単位団においてもそれぞれ父兄会という名称で母集団が組織されております。

この組織は、親を中心に結成され、同運営のために役割分担を指導者に協力するとともに、大会の輸送や親子行事に参加し、団活動の強力な推進役となっております。

バドミントン・バスケットボールなどによる試合を行ったり、親も一緒に積極的に体を動かして

また、各単位団においてもそれぞれ父兄会という名称で母集団が組織されております。

この組織は、親を中心に結成され、同運営のために役割分担を指導者に協力するとともに、大会の輸送や親子行事に参加し、団活動の強力な推進役となっております。

# 県の動き

## 表彰

◆山形県スポーツ少年団感謝状  
永田竜昭(前県本部長・上市市)  
淀 吉二(前県本部長・長井市)  
高橋梯一(前県本部長・長井市)  
日本スポーツ少年団表彰受賞者(団)  
◆表彰市町村スポーツ少年団  
新庄市

## 表彰指導者

佐藤徳四郎(山辺町)・中村忠(余目町)・近野晶嗣(高島町)・粕川孝男(飯豊町)

## 山形県スポーツ少年団

### 表彰受賞者(団)

◆功 労 者  
太田忠明(山形市)・三澤靖武(山形市)・安孫子喜美夫(寒河江市)・加藤正恒(大蔵村)・大渡朝生(米沢市)・渋谷勝男(長井市)・伊藤孝紀(鶴岡市)・丸藤公夫(酒田市)・佐藤繁(余目町)・佐藤義彰(鶴岡市)

## 優良団

上市市トランポリンスポーツ少年団(上市市)・わかたけミニバスケットボールスポーツ少年団(山形市)・大江レッドタイガーススポーツ少年団(大江町)・神崎スポーツ少年団(村山市)・曲川スポーツ少年団(鮭川村)・米沢市東部サッカースポーツ少年団(米沢市)・長井ハレーボールスポーツ少年団(長井市)・大泉剣道スポーツ少年団(鶴岡市)・鳴光スポーツ少年団(鶴岡市)

## 各級スポーツ少年団資格取得者

◆少年スポーツ上級指導員  
坂田喜一郎(川西町)

## 平成9年度 山形県スポーツ少年団登録状況

平成10年1月31日現在

単 位	単 位 団 数 ( 団 )			団 員 ( 人 )		指 導 者						計	
	更 新	新 規	計	男	女	男			女				
						更 新	新 規	計	更 新	新 規	計		
総 数	962	34	996	17,356	9,263	26,619	4,308	748	5,056	367	122	489	5,545
東南村山支部	257	6	263	4,242	1,806	6,048	845	196	1,041	74	33	107	1,148
山 形 市	159	4	163	2,692	1,062	3,754	514	127	641	51	20	71	712
上 山 市	25	0	25	388	240	628	81	12	93	9	2	11	104
天 童 市	49	2	51	798	295	1,093	150	41	191	6	8	14	205
山 辺 町	17	0	17	220	146	366	59	5	64	5	2	7	71
中 山 町	7	0	7	144	63	207	41	11	52	3	1	4	56
西村山支部	74	1	75	1,380	590	1,970	298	41	339	7	7	14	353
寒 河 江 市	29	0	29	579	204	783	124	14	138	4	0	4	142
河 北 町	19	0	19	379	222	601	85	17	102	2	2	4	106
西 川 町	7	0	7	114	51	165	18	7	25	1	4	5	30
朝 日 町	11	0	11	160	71	231	41	1	42	0	1	1	43
大 江 町	8	1	9	148	42	190	30	2	32	0	0	0	32
北村山支部	100	7	107	1,954	907	2,861	482	89	571	27	13	40	611
村 山 市	26	1	27	548	159	707	127	25	152	6	4	10	162
東 根 市	34	4	38	652	327	979	112	18	130	5	4	9	139
尾 花 沢 市	31	1	32	562	327	889	184	41	225	11	5	16	241
大 石 田 町	9	1	10	192	94	286	59	5	64	5	0	5	69
最上支部	84	2	86	1,630	1,139	2,769	479	123	602	30	9	39	641
新 庄 市	30	1	31	547	364	911	113	33	146	14	3	17	163
金 山 町	9	0	9	241	148	389	92	33	125	2	1	3	128
最 上 町	13	0	13	237	141	378	73	13	86	0	0	0	86
舟 形 町	4	0	4	150	139	289	53	16	69	3	4	7	76
真 室 川 町	10	1	11	184	117	301	61	6	67	6	0	6	73
大 蔵 村	4	0	4	64	54	118	13	4	17	0	0	0	17
鮭 川 村	9	0	9	116	75	191	36	6	42	4	0	4	46
戸 沢 村	5	0	5	91	101	192	38	12	50	1	1	2	52
東南置賜支部	101	2	103	1,996	1,012	3,008	558	68	626	76	15	91	217
米 沢 市	50	0	50	929	407	1,336	231	21	252	39	6	45	297
南 陽 市	24	1	25	441	223	664	126	17	143	14	3	17	160
高 島 町	13	0	13	349	182	531	101	12	113	14	2	16	129
川 西 町	14	1	15	277	200	477	100	18	118	9	4	13	131
西置賜支部	80	2	82	1,408	859	2,267	454	60	514	45	7	52	566
長 井 市	25	1	26	521	253	774	122	22	144	15	4	19	163
小 国 町	11	0	11	164	95	259	66	9	75	7	0	7	82
白 鷹 町	28	1	29	546	377	923	214	21	235	16	2	18	253
飯 豊 町	16	0	16	177	134	311	52	8	60	7	1	8	68
庄内支部	266	14	280	4,746	2,950	7,696	1,192	171	1,363	108	38	146	1,509
鶴 岡 市	81	5	86	1,297	836	2,133	301	55	356	29	16	45	401
立 川 町	9	0	9	130	77	207	39	1	40	4	0	4	44
余 目 町	16	1	17	231	120	351	51	4	55	2	2	4	59
藤 島 町	9	0	9	180	105	285	35	4	39	4	1	5	44
羽 黒 町	11	0	11	221	135	356	47	2	49	1	2	3	52
朝 日 村	8	0	8	154	113	267	69	14	83	4	4	8	91
櫛 引 町	18	0	18	246	162	408	64	13	77	14	1	15	92
三 川 町	3	8	11	134	81	215	58	0	58	0	0	0	63
温 海 町	8	0	8	149	107	256	24	9	33	3	0	3	36
酒 田 市	66	9	75	1,354	809	2,163	341	42	383	29	11	40	423
遊 佐 町	15	0	15	214	153	367	57	13	70	4	1	5	75
八 橋 町	9	0	9	189	88	277	32	5	37	2	0	2	39
松 山 町	10	0	10	128	93	221	45	8	53	4	0	4	57
平 田 町	3	0	3	119	71	190	29	1	30	3	0	3	33

◆認定育成員  
柴崎美枝・早川勤也(以上寒河江市)・高梨智美(河北町)・高橋達之(金山町)・鈴木聡・大滝新一(以上南陽市)・芳賀繁男(白鷹町)・成澤和則(藤島町)・川俣義昭(遊佐町)・筒井昭治(松山町)・高橋克幸(平田町)

◆認定員 九年度五〇〇名受講  
修了内二三三名認定二六七名が九年度未登録のため保留★認定員資格は十年度未登録の場合、資格が消失します(注)ご注意ください。  
《シニア・リーダーズスクール》  
前期・秋田県 後期・静岡県  
運営補助者・高梨智美(河北町)・団員・柴崎浩明・石山徹(以上寒河江市)・横山純子・芳賀誠・原田伸・新野学(以上白鷹町)・池田史裕・齋藤豊和・船山聡史(以上川西町)・佐藤篤(鶴岡市)

《ユニアリーダーズスクール》  
神室 三九名をユニアリーダーに認定  
《全国スポーツ少年大会》 埼玉県 指導者・高橋修也(鶴岡市)・団員・須貝一貴・青木充・坂野真希子(以上川西町)・佐竹美麻子・奥山久・原田明・(以上白鷹町)・佐藤大輔・志田望智博・早坂彬・村田里枝子(以上鶴岡市)

《東北ブロックスポーツ少年大会》  
秋田県 指導者・豊田平(川西町)・団員・五十嵐拓也・加藤優介(以上尾花沢市)・猪狩干洋・佐藤真人・嶋貴まみ・豊田司・那須和幸・細谷章寛(以上川西町)・奥山里美・加藤智佳子・佐竹彰(以上白鷹町)・齋藤山形県より一九名参加  
《全国SIPS交流大会》 東京都 指導者・高橋啄也・団員・佐々木優・佐藤尚人・柴田枝里子・高橋達也・八坂智美・佐藤芳典(以上真室川町)  
《スポーツ指導者全国研究大会》 東京都 パネリスト・村田久忠(鶴岡市)

平成10年度 山形県スポーツ少年団事業計画

	事業名	期日	会場		
種目別 交流大会関係	県内				
	県内	・県少年少女スポーツ交流大会 ・第4回全国スポーツ少年団SHIPS交流大会 ・全国スポーツ少年団競技別交流大会	10月4日(日) 8月6日(木)～8日(土)	県総合運動公園他 国立オリンピック記念青少年センター	
	県外	・サッカー(第22回) ・ホッケー(第20回) ・軟式野球(第20回) ・卓球(第21回) ・剣道(第21回)	7月27日(月)～8月1日(土) 8月8日(土)～10日(月) 8月15日(土)～18日(火) 3月26日(金)～28日(日) 3月26日(金)～28日(日)	東京都・読売サッカー場 熊本県 愛知県 新潟県 兵庫県	
		・東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 ・軟式野球 ・サッカー ・柔道 ・ミニバスケットボール	7月26日(日) 7月25日(土)～27日(月) 11月28日(土)～29日(日) 3月28日(日)～30日(火)	宮城県 青森県 岩手県 山形県天童市	
		・認定員養成講習会(8コース開催)	8月29日(土)～30日(日) 9月12日(土)～13日(日) 11月14日(土)～15日(日) 11月28日(土)～29日(日) 11月28日(土)～29日(日) 11月28日(土)～29日(日) 12月5日(土)～6日(日) 12月5日(土)～6日(日) 12月13日(日)	飽海地区 大石田町 河北町民体育館 田川地区 白鷹町 最上合同庁舎・新庄市体育館 山形市江南公民館 高島町体育館・高島町中央公民館 西村山支部・西川町開発センター 西村山支部・朝日少年自然の家	
	県内	・体カテスト判定員講習会 ・ジュニアリーダーズスクール ・市町村スポ少・スポ安研修会 ・県指導者研修会 ・育成母集団研修会 ・リーダー会研修会	8月17日(月)～19日(水) 3月4日(木)～5日(金) 3月6日(土)	東南村山支部・山形市江南公民館 東南村山/東南置賜支部	
		・シニアリーダーズスクール(前期) ・認定育成員研修会(東京特別会場) ・認定育成員養成講習会(前期) ・認定育成員養成講習会(後期) ・少年スポーツ上級指導員養成講習会(共通科目)	8月12日(水)～15日(土) 3月26日(金)～28日(日) 9月18日(金)～19日(土) 11月28日(土)～29日(日) 9月19日(土)～21日(月) 11月6日(金)～8日(日) 11月10日～15日三重県 or 11月17日～22日埼玉県 or B級指導者講習会	田沢湖スポーツセンター(秋田) 国立中央青年の家(静岡) 田沢湖スポーツセンター(秋田) 国立オリンピック青少年センター 田沢湖スポーツセンター(秋田)	
		・全国リーダー研究大会 ・指導者全国研究大会	12月1日(火)～6日(日) 7月19日(日)～21日(火) 2月7日(日)	国立オリンピック青少年センター(東京) 国立オリンピック青少年センター(東京) 東京都	
	交流関係	県内	・第34回山形県スポーツ少年大会 ・地域交流促進事業	8月6日(木)～8日(土)	東南村山支部・山形市少年自然の家 西村山/西置賜支部
		県外	・第29回東北ブロックスポーツ少年大会 ・第36回全国スポーツ少年大会 ・第25回日独スポーツ少年団同時交流(派遣)	8月1日(土)～8月4日(火) 7月31日(金)～8月4日(火) 7月22日(水)～8月14日(金) 7月31日(金)～8月6日(木) 9月19日(土)～10月9日(金) 10月22日(木)～11月7日(土)	岩手県・国立岩手山青年の家 福岡県 ドイツ 東南置賜支部 ドイツ 北信越ブロック 東北ブロック
・日独青少年指導者セミナー(派遣) ・日独スポーツ少年団指導者海外研修(受入) ・日中青少年スポーツ交流指導者交流(受入) ・団員交流(受入)			8月上旬		
・県スポーツ少年団協議会 ・県スポーツ少年団本部員会 ・県スポーツ少年団専門委員会(企画プロジェクト 6月下旬・11月下旬) (普及10月上旬・1月上旬)			5月8日(金)/2月16日(火) 5月8日(金)/2月16日(火)	県総合運動公園 県総合運動公園	
県内		・県スポーツ少年団指導者協議会理事会 ・(県スポーツ少年団指導者協議会専門部総会/幹事会) ・県スポーツ少年団表彰、日本スポーツ少年団表彰伝達式 ・県スポーツ少年団リーダー会総会/運営委員会	5月12日(火)/11月4日(水) 3月6日(土)/ 3月4日(木) 3月下旬/	県体育協会 県体育協会 山形市江南公民館/	
		県外	・東北6県体育関係者会議 ・全国指導者協議会 ・日本スポーツ少年団委員総会 ・全国都道府県事務担当者会議 ・東北ブロック指導者研究協議会 ・北海道東北ブロック会議	5月19日(火)～20日(水) 6月4日(木)～6日(土) 6月10日(水)～3月10日(水) 6月10日(水)～11日(木) 11月19日(木)～20日(金) 2月4日(木)～5日(金)	福島市 秋田市 岸記念体育会館(東京) 岸記念体育会館(東京) 福島市 福島市

☆全指導者の資格取得が目標です。上記日程講習会へ進んで参加して下さい。

スポーツ安全協会傷害保険(賠償付)

・後遺傷害が2,000万円から3,000万円にアップになりました。・実業団チーム、大学の運動部も1-Cで加入可能です。

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等に最適な保険です。

※5人以上のグループで御加入ください。

区分	掛金	死亡	障害 後遺障害	入院	通院	賠償責任保険	共済見舞金
子供のスポーツ活動等成人の文化活動、 ボランティア活動、地域活動	450円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	(補償限度額) 身体賠償 1人1億円	突然死および 日射病・ 熱射病による 死亡
老人のスポーツ活動	800円	500万円	750万円	1,800円	1,000円	1事故5億円 (免責1,000円)	140万円
成人のスポーツ活動	1,400円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	500万円 (免責1,000円)	
山岳登山等	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

◆対象となる事故 ①グループ活動中の事故 ②往復途中の事故 ◆保険期間 平成10年4月1日から翌年3月31日まで(申込受付は3月から)